

つどいの家
後援会だより
— 第 1 号 —

発行 昭和62年10月16日
つどいの家後援会
仙台市支倉町2-35
(やまびこホーム1階)
TEL 261-3664

つどいの家後援会発足にあたって — その後の経過とお願い —

つどいの家は、57年8月に発足して以来、実に様々な形で多くの方々のご援助を頂き、運営してくることが出来ました。

心から感謝申し上げます。

つどいの家は、ご存じの方も多いと思いますが、重度な障害が二重、三重に重複している為に、国の現行法下の施設には、なかなか入所が難しい青年達の為に、社会の中で明るく生きる場を求めて作られた施設です。

初めは親の会のみの運営でしたが、58年度に仙台市より60万の助成を受けて以来、59年度には宮城県心身障害者通所援護事業の適用を受け、昭和61年度は県より40万、市より400万の助成を受けております。

しかしながら、本年4人の新しい通所者を受け入れるにあたり、園長の他に2人の指導員のみでは対応が難しい状態となり、指導員増員を目指しての資金獲得のため、本年3月、後援会入会のお願いをした次第です。

幸い62年度は、仙台市の助成金が48万アップされ、更に育成会のお世話で国庫補助金70万（2年間のみ）が支給されることになり、公的補助が獲得された為、職員を1名増員することができ一息ついているところです。

これも、本年3月の後援会入会の呼び掛けに快く応じて下さった皆様のご厚情とご支援のお蔭と深く感謝致しております。

現在は通所者15名に対し、園長の他に指導員3名の指導体制で運営しております。

しかし、今後入所者が増えることは必須で、日常動作全てに介助を要する人々が対象の施設ですので、職員の増員や専門的なケアが、ますます求められております。

今後、安定した施設運営をするためには、職員が安心して働ける環境作りが必要です。

まず、つどいの家の入所者の増加に伴う職員の増員及び施設の拡充、そしてベテラン職員が長く働けるように、社会保険（厚生年金・失業保険）に加入できる体制作りが必要です。

このためには、後援会の基盤を充実させていかなければなりません。

どうぞ、これらの事情をおくみとりの上、今後とも継続して後援会にご入会して頂き、精神的にも経済的にもますますご援助をお願い申し上げます。

また、今後、後援会の運営を適切に、そして活性化していくために、後援会役員の方を募っております。役員の方は自薦、他薦いずれでも結構でございますので、どうぞよろしくお願い申し上げます。

今後も、精一杯の努力を続けて参りますので、ご指導の程、よろしくお願い申し上げます。

年会費

1. 法人（団体）会員 1口 10,000円

2. 一般会員 1口 3,000円

※ 但し4月1日 ～ 翌年3月31日を1年とします。

事務局

〒980

仙台市支倉町2-35

つどいの家内

TEL 022-261-3664

振込先

郵便局

口座番号

仙台 8-30214番

つどいの家後援会

《つどいの家指導目標》

つどいの家では、①機能低下を防ぎ、命を守るための機能訓練を行う。
 (健康管理) ②音楽や趣味的活動を通し、知的情操の発達を促す。(教育)
 ③能力に合った初歩的な作業をし、社会性や責任感・自立心を育てる。
 (労働) ことを事業内容としています。

毎日の指導は以上の三つを柱とし、これに添って年間指導計画、月間指導計画、そして日々の指導計画へと分解され、個別目標のもとに日課の中で実践されています。

今回はその中の月間指導目標を紹介し、つどいの家の青年達への取り組み、様子などを少しでも知って頂ければと思います。

4 月	1. 入所式及び始業式 (1)新しい出発の緊張と喜びを味わう。 (2)新しい仲間、新しい先生や来賓を迎え、今年もみんなで 広がり求めて活動することを話し合う。 2. 返事、挨拶を元気よくしよう。 3. 手洗いや便所の使い方を覚えよう。 ・ 4名の新しい仲間が入所しました。
5 月	1. 買物学習 (1)街の中の人や商店の様子を楽しむ。 (2)目的を持って買物し、お金の使い方を覚える。 2. 交通公園で遊ぶ。 (1)川沿いに長い距離を歩き、景色を楽しむ。 3. 春の野外研修 (1)定禅寺通り、青葉通りの若葉を楽しみながら、バスのド ライブを楽しむ。 (2)青葉城を見学し、仙台の歴史を話してもらう。 (3)青葉城から仙台の街並を眺望し、街の広さを知る。 (4)野草園で心身共に解放し、くつろぐ。 4. 守る会総会に出席し、他の学校や施設の友達と久しぶりに会 い、連帯感を味わう。

5 月	5. 自分の持ち物の管理を覚えよう。 ・通所者4名の増員に伴い、やっと新しい指導員（女性1）を迎えることが出来ました。 ・知的欲求度は高いが、身体が不自由で街へ出かける機会の少ない火・木グループが買物学習、歩くことの出来る知恵遅れの青年達は体力増強を目指して、交通公園まで遠足をしました。買物学習でK君やNさんは母の日のプレゼントを買えたのが、とても嬉しかったようです。
6 月	- 健康を維持するための基本的な生活習慣を培う。 (1)手洗い（食事前、散歩後、排せつ後）の徹底。 (2)顔洗い、自分で顔を洗う練習をする。 - 健康診断を受け、お医者さんのいうことをよく守ろう。 - 歯科検診を受ける。 (1)治療が済んでいない人は積極的に治療する。 (2)正しい歯磨の仕方を身に付けよう。 - お手伝い（作業訓練を通して）をする。 (1)夏の野菜の名前と形を覚える。 (2)野菜の皮むきや豆むきを通して、指先の訓練をして、家に帰ってもお手伝いをする。 - ローラーで描いたり、プリンティングをして、楽しみながら作品作りをする。 (1)思いきり腕を動かすことにより、上腕、下腕の動きをスムーズにする訓練をする。 (2)描きだされる予想外のにじみや色の美しさに感動する心を養う。 ・二重、三重の障害を持つ青年達の健康診断は欠くことはできません。保健婦さんに褥瘡の手当の指導を受け、家庭訪問をしていただいた青年もいました。 ・手先が不自由で筆を持てない青年や、物の形を認識し、形として表現しない青年たちも伸び伸びと活動し、次々と変わる色彩の変化のおもしろさに感動した様子でした。

7月	1. 天気の良い日は外で遊ぶ。 (1)夏の間に十分に紫外線を浴びて丈夫な体を作る。 (2)砂遊び、水遊び、粘土遊びを通して肉体や精神を解放する。 (3)(1)、(2)を通して、海水浴の準備をする。 2. 海水浴に行く。 (1)丈夫な体を作る。 (2)太陽の光の中で、手足を思いきり伸ばし解放感を味わう。 (3)介助者と共に海水に身をゆだねることにより、身体感覚を養う。 3. 第一期始業式をする。 (1)一期を振り返って話し合う。 (2)がんばったで賞をもらい、励みとする。 4. 守る会の野外研修（コバルトライン）に参加する。 (1)コバルトラインの美しい景観を楽しむ。 (2)他の施設や学校の友達と仲良くし、見聞を広め大きな集団に慣れる。
8月	・お天気を心配しながら、海に着いた途端にお日様が顔を見せてくれ、幸運でした。重度な障害者の海水浴は事故にもつながりやすいとはいえ、だからこそ一年に一度位は経験させたいという行事。職員一同緊張して立ち向かっています。 1. 暑い夏の日の通所負担を軽くする夏休みに、地域や家族との交流を深めながら、夏を快適に過ごす。 2. 一学期の積み重ねの成果を家庭内でも崩さずに実行する。 3. 第二期始業式をする。 (1)第二期の活動目標や行事について話し合い、見通しのある行動をする。 4. 24時間テレビのチャリティバザーの販売に参加する。 (1)自分たちの作った布ボールを販売し、収益を上げることの大変さや喜びを体験する。

8 月	(2)いつも多くの世話を受けている青年達も、人のために役立つことができることを確認しあい、努力し、募金をする。 ・24時間テレビのチャリティバザーに参加し、布ボール96個(48,000円)を売り上げました。 実際に販売をした青年達は、物を売る大変さと喜びを感じていたようです。 そしていつも社会のお世話になっている重度な障害を持つ青年達も、感謝を込めてアフリカの子供達への募金に応じ収益の中から5,000円寄付しました。
9 月	1. 着脱訓練をし、少しでも自立に向けて努力する。 (宿泊訓練に向けて) 2. 宿泊訓練をする。 (1)自立心を養う。 ①母子分離の宿泊を経験し、基本的な身の回りの始末を少しでも自分でできるようにする。 ②いつも代弁者である母親を離れて、少しでも意志表現ができるようにする。 (2)仲間や指導者と寝食を共にし、仲間と楽しく過ごすことによって、お互いを知り、友情を深める。 ①買物に出かける。 イ.野菜の名前を覚える。 ロ.街の中の散歩を楽しむ。 ②調理をする。(コロッケ作り、枝豆もぎ) イ.身近な野菜(ジャガイモ、玉ねぎ、にんじん)に、じかに触れ、名前を知り、実際に洗ったり皮むきの経験をする。 ロ.粘土遊びなどを通して、学習した成果をコロッケを丸める作業に生かす。 ハ.小麦粉やパン粉をまぶすことにより、新しい手作業を経験する。

9	ニ.調理の楽しさを味わい、準備や後片付けを最後まできちんとする。 ホ.自分で作ったコロケをみんなで楽しく味わう。 ヘ.6月にやった枝豆もぎを再度学習し、手指の訓練とし、家でもお手伝いをするようにしむける。 ③ミニ運動会を楽しむ。 イ.広い所で思う存分体を動かし、心身共に解放すると共に、集団でゲームをする楽しみを味わう。 ロ.障害物競争を通して、いろいろな体の動かし方を学ぶ。 ハ.借り物競争をして、物の名前を覚える。 3.市民福祉展を見て、他の施設の仲間の活動を知り、視野を広げる。 4.守る会施設見学会に参加し、他の施設で頑張っている仲間達を知り、視野を広げる。
月	・母子分離の宿泊訓練は、4年目になります。初めは心配で手離せなかった親達も喜んで参加させるようになりました 母親達からは1泊を2泊に増やせないかとの要望も出ています。発作があったり、飛び出しで目が離せなかったり、身体が不自由で全面介助の青年達ですが、やがて親が先立つことを考えると、どうしても必要な訓練です。 今年も市教委や市相談センターの協力で無事終える事ができました。感謝！

「つどいの家」と出合って

みきグループ

成瀬 悦子

この小さな家と出合って二年になります。今は週一度、給食のオバサンとして皆に会いに行っています。御飯が好きな子、おかずしか食べない子、なめた様にきれいに食べる子、全部を器に入れ胃の中はかくや……と思われる様にして食べる子。

施設にありがちな大声での叱責もなく、その子の人格を認めた接し方、一人一人の目標に添った先生の指導に頭がさがります。

お母さん達は、普通ならもう働いているであろう年令の子供の為、別室で資金作りの布ボールを作っています。そしてその会話の楽しい事！そして時々もれる悩みの言葉は、ズッシリとこたえます。

今度「つどいの家」では、一人一人の能力、訓練にあったエプロンをつけます。この事にも、この家の姿勢が表れている様に思います。そして先生やお母さんの気持ちが通じる様に、少しずつではあるけれど、確実に子供は成長しています。（それぞれの子供に合わせるといことがどんなに大切か、そしてどんなに大変か、一度見にいらっしゃって下さい。）

給食ボランティアに携わって

峰の会

土井 昭子

「『つどいの家』という所で給食ボランティアが必要なんですって」
そういう話を聞いたのは四月初めでした。

その時は「つどいの家」という名前も、給食ボランティアというのも初めて聞く言葉でした。

普段、身障者の方々と接することのない私達は、正直いって「きるかなと少々考えました。

しかし、下郡山先生のお話を伺った時、先生のすばらしいお考えに感動し、微力ながら私達でもお役に立てば……と給食ボランティアのお仕事を引き受けることにいたしました。

私達は早速八人で当番を組み、献立記録ノートを作って準備を整え

ました。当番になった人は事前に献立を立て、予算とにらみ合いながら、買物の計画、当日の手順も考えるのです。

記録ノートを見て前の方々と違うものを作ろうと本を見たり頭をひねったり、私達にとって事前の楽しいひと時なのです。先生からは、特別に考えなくてもいいと、ホッと一言をおっしゃっていただいたせいか、この頃は献立もあっさりと決まるようになりました。

何回か通っているうち、子供から「今日のお昼、何？」と聞かれた時、そしてお母様方から「火曜日の給食楽しみにしているんですよ。」と言われた時は涙が出る程うれしくなり、給食ボランティアを引き受けてよかったと思いました。先日はおいしいはずの味つけご飯が“メッコご飯”のようになるという大失敗をしてしまいました。でも先生方は「よくかめば大丈夫。とてもいい味つけ。」とっておかわりまでして下さいました。

福祉に携わる方々の暖かい心にふれ、こういう先生方がお世話なされているからこそ、子供達も障害児とはいえ素直に明るく育っているのだなと勉強させられました。

これからまた、どんな給食をつくるか、私達自身も楽しみながら、勉強しながら、「つどいの家」の皆様方においしく食べていただくように頑張るつもりです。

両上下肢機能損傷全面介助

相沢 容子（通所者の母）

つどいの家に通園して早五年。最初の頃はわがままな子で、先生方の言うことも聞かず、自分の意志を通しつづけ大変でした。

先生方、ボランティアの全力指導により、一年ごとに自立が出来るようになり、今では食事も自分で行い、歌も楽器も覚えました。

また、園長先生の心づかいで歯の治療をして立派な歯になり、何でも食べられるようになり、私達は感謝しております。

今では子供達になくてはならないつどいの家となりました。子供達も年ごとに大きくなり、今の職員の人数ではとても大変です。これからのつどいの家をよりよくするために、どうか、職員の増員に皆様の暖かい御協力をよろしくお願い致します。

つどいの家

“布ボール”

つどいの家の布ボールは、重度・重複の障害を持つ青年達にも何かできる作業はないものか … という模索の中から生まれました。

“ウレタンをちぎる” この単純そうで簡単そうな手作業には、青年達に必要な手指の訓練、手と目の協応訓練等々、大切な多くの目標が込められています。

全ての活動に、意識的、目的的に取り組むことが難しく、やわらかいウレタンをちぎることさえ難しい青年達ですから、日々の活動はどうしても日常生活訓練や機能訓練にウエイトが置かれてしまいます。

まして、作業の意義、働く喜びなどという事を教えていくとなると、本当に大変なことです。

しかし、1日30分でもみんなでテーブルに向い、“仕事をする”という姿勢で取り組んできた結果、青年達はもちろんのこと、母親達の意識にも変化が表れてきました。

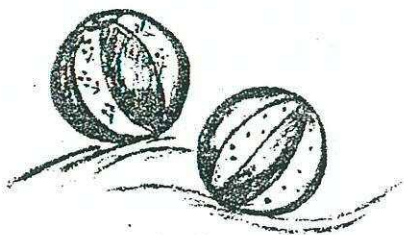
椅子にジッとしておれず、テーブルの下にもぐりこんで寝転んでいたTさん。今ではウレタンを手に持って椅子に座り、1対1だと引っ張りっこで、ちぎれるようになりました。

「疲れる。つまらない。」と拒否していたNさんもヘルパーさんに自主的にセールスしたりと、積極的に取り組めるようになりました。

今年は、24時間テレビのチャリティバザーに青年、母親共参加し、実際にセールスしてみることにより収益を上げる事の大変さ、売ることの喜び、そしてどんなに重度の障害者でも、人の為に役立つことができるということを、確認し合いました。

今年度に入ってから、母親達やボランティアさんの協力で、布ボールの売り上げがどんどん伸び、それに励まされて青年も親も指導員も一体となって、真剣に作業に取り組んでいます。

布ボールの収益は、つどいの家の大切な運営費の一部です。どうぞ、これからも皆様のご協力を、お願い致します。



布ボール販売状況

S 6 2 . 4 ~ 9 月

☆ 常時置いていただいているお店

◇ ぐりんぴいす……26個 ◇ ポラン……10個

◇ おひさまや……29個 ◇ プーの家…5個

☆ その他（個人・チャリティバザー）……214個

合計……284個

収益金……¥ 131,700

※ 皆様の暖かいご協力ありがとうございました。

これからもよろしくお願い致します。

あ と が き

私達の子供は、重複障害の上に、あまりに重すぎる障害なので、国の制定する福祉制度の枠内の施設から除外されたはみ出しっ子なのです。

つどいの家は、そういった人々の吹きだまりと言えます。本来は国の仕事なのです。…と、半ばやけくそな被害者意識で開き直るのは、たやすいことです。

しかし、むしろそういった被害者意識を並べたてるよりも、誇りを持って、これらの個性豊かで多様な障害者達が、見事に存在を主張し、いきいきと、つどいの家に通所している姿を見て欲しいと思うのです。

私達（母親達や障害者、指導員）は、主体的にこの道を選びたいと思っていることを。

発足して五周年となるつどいの家のコピーは『広がろう 広げよう』です。

母親達の手で細々と運営している施設ですから、残念ながら、まだ大きなアドバルーンをあげるなどできるわけではありません。

しかし、着実に草の根的に、この重度障害者達のいきいきと生きる場を広げつつあります。

あまり攻撃的にならずに、そして自閉的にもならず、自然に地域の中で生きていきたいと思っております。

後援会に入会して下さった人々の理解ある励ましに心から感謝しております。人は人の字のごとく、支えなしには生きていけないことを、つくづくと噛みしめております。